

令和6年度 数学科 授業改善推進プラン

大田区立馬込東中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・ 1学年は、基礎・基本の定着に力を入れている。特に、正負の数や文字式の計算では、反復練習を実施し、定着を図る。
- ・ 2学年は、計算練習に力を入れており、基礎・基本が定着してきた。計算練習を継続し、2学年で学習する計算問題の定着を図る。
- ・ 3学年は、基礎・基本が定着してきていて、すべての領域で目標値をこえることができた。基礎・基本の反復練習を行い、今後も定着を図る。

(2) 課題

- ・ 1学年は、表から内容を読み取り平均を求めることに課題がみられた。また、平面図形に関する問題にも課題が見られた。文章読解や表の読み取りに関する学習活動を十分に確保するとともに、生徒一人一人の問題の考え方、捉え方の充実を図る。
- ・ 2学年は、関数の問題に苦手意識があるとみられる。関数の意味やグラフの書き方等、少人数指導を活かし、一人一人で考える時間を確保したい。また、図などを用いて視覚的に解説し、式の立て方を指導していく。
- ・ 3学年は、関数や証明の問題に苦手意識があるとみられる。少人数指導を活かし、習熟度に合わせた指導に取り組み、問題の考え方の定着を図る。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第1学年	校内平均正答率は目標値を5.2ポイント、区の平均値を2.7ポイント上回っている。	/	/
第2学年	校内平均正答率は目標値を4.9ポイント、区の平均値を4.6ポイント上回っている。	校内平均正答率は目標値を5.5ポイント、区の平均値を4.8ポイント上回っている。 (第1学年時)	/
第3学年	校内平均正答率は目標値を5.8ポイント、区の平均値を7.2ポイント上回っている。	校内平均正答率は目標値を12.1ポイント、区の平均値を8ポイント上回っている。 (第2学年時)	校内平均正答率は目標値を6.1ポイント、区の平均値を5.3ポイント上回っている。 (第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
区の目標値を6.3ポイント、区の平均値を2.9ポイント上回った。整数の性質の項目が、目標値より0.8ポイント上回っているが他の項目より低い。	区の目標値を2.6ポイント、区の平均値を1.4ポイント上回った。平面図形の項目が、0.3ポイント上回っているが他の項目より低い。	区の目標値を3.7ポイント、区の平均値を3.4ポイント上回った。平均。場合の数の項目が、区の平均正答率より1.0ポイント下回っている。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
区の目標値を5ポイント、区の平均値を4.1ポイント上回った。継続して、計算練習を行っている。	区の目標値を2.4ポイント、区の平均値を6.6ポイント上回った。比例・反比例と平面図形の問題に課題がみられた。	区の目標値を4.6ポイント、区の平均値を5.9ポイント上回った。与えられた文章題に対して適切な方程式を立式する問題の正答率が低く、文章から必要なことを読み取る力に課題がある。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
区の目標値を5.7ポイント、区の平均値を7.3ポイント上回った。継続して、計算練習を行っている。	区の目標値を6.1ポイント、区の平均値を7.1ポイント上回った。図形の証明部分に課題が見られた。	区の目標値を6.9ポイント、区の平均値を8.7ポイント上回った。データの分野では高い正答率がみられるが、図形の分野に課題がみられる。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
正負の数や文字式の計算といった基礎基本計算の定着を図る。授業での反復練習や小テストを通して計算の正確さと速さを身に付けさせる。	問題提示後、問題解決への見通しを立てたり、グループで話し合ったり、問題を振り返って検証したりする学習活動を充実させる。	授業で学習した内容を自分なりに振り返り、自らの学習状況を分析し、生徒自らの主体的な学び充実させるための課題学習や家庭学習への取り組みを推進する。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
分数や1次式などの計算を確実にできるように反復練習を行う。また、関数を理解して扱えるように、復習をしながら指導していく。	関数の式が何を表しているのか考えさせ、ICT機器を使い視覚的に理解できるようにする。また、図を描くなどして、視覚的に理解できるような解説を行い、式の作り方を指導していく。	問題を解く際に、解き方を暗記するのではなく、どのように考えて答えまでたどり着けばよいかを考えさせる。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単項式・多項式の計算、連立方程式といった基礎・基本の計算を復習し、計算力の定着と向上を図る。	授業において、生徒が考える場面を設定する。問題を解くときに、先を見て筋道を立てて思考する練習を行い、式の立て方、説明ができるようにしていく。	ICT機器を適材適所で活用し、視覚的に理解を深める指導を行う。また課題を設定し自分なりに考え試行錯誤するような時間を設ける。